

a 学校教育目標	かしこく なかよく げんきよく	b 経営理念 ミッション・ビジョン	【ミッション(自校の使命)】 自分を愛し、夢を語る児童の育成 【ビジョン(自校の将来像)】 児童が満足する学校、保護者が安心する学校、地域が誇りに思う学校、そして教職員が生き甲斐や行き甲斐を感じる学校。
----------	-----------------	----------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------

評価計画				自己評価					改善方針		学校関係者評価				
c 中期経営目標	d 短期経営目標	e 目標達成のための方策	f 評価項目・指標	g 目標値	10月	2月	i 達成度	j 評価	k 結果と課題の分析	改善方針	評価				
					h 達成値	h 達成値					イ	ロ	ハ		
確かな学力	すすんで学び、よく考え豊かに表現する学力を育てる。	基礎・基本の学力向上	<p>○主体的な学びにつながる授業の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童の課題意識を生み出す発問構成の工夫 集団思考場面での児童の思考を引き出す発問構成の工夫 「検定問題」での学習到達度の把握と定着 ICTの活用 	<p>【各種学力調査】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①単元末テスト(算数)の正答率 85% ②全国学力・学習状況調査の正答率、全国平均以上 100% ③NRT(学力テスト)の正答率、全国平均以上 100% <p>【児童アンケート】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①「算数の授業が楽しい」85% 	100%	94%		94%	B	<p>【各種学力調査】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①知識技能 91% 思考・判断・表現 85% ②国語64(対全国比-1.6) 98% 算数62(対全国比-1.2) 98% 理科63(対全国比-0.3) 99% ③国語48.2(対全国比-1.8) 96% 算数48.8(対全国比-1.2) 98% 理科48.5(対全国比-1.5) 97% <p>【児童アンケート】①85%</p> <p>○全国学力学習状況調査、NRTともにほぼ全国平均となった。</p> <p>▲単元末テストでの学年ごとの差が依然として大きい。特に、思考力・判断力・表現力の正答率向上が課題である。</p>	<p>○基本的な学力の向上に向けて、以下の取組を継続しておこなう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ユニバーサルデザインの授業づくり ICT機器の効果的な活用 ドリルタイムや家庭学習と授業の関連付け 「百ます計算」の継続 個別の学習指導や「放課後学習」の活用 <p>○児童が各時間において本時の課題を明確に持てるような、問題提示や発問構成の工夫を継続しておこなう。</p> <p>○思考力・表現力・判断力の向上に向けて、授業において「山場」となる部分を明確にし、ベアークやグループワークを効果的に設定することで、自分の考えを表現したり、相手の考えに触れさせたりする授業づくりを行う。</p>	2			<p>・適正に評価されている。</p> <p>・全体的に先生の話方が平坦である。山場には声を変えて訴える等の工夫ができればよい。学力向上への元は授業である。どこにポイントを置いて展開するか自分なりにできていれば取り上げ方が変わる。</p> <p>・授業力のある先生の授業を見るのが日常からできれば、まねができてスキルがアップする。</p> <p>・板書の字は、子ども達に大きな影響を与える。丁寧に書くことを意識するとよい。4年生以上のノートはきれいにとられている。</p> <p>・研究教科である算数だけは、特に力を入れて授業をするようになれば力がつく。</p>
			<p>○学習規律の徹底(4月中に達成)</p> <ul style="list-style-type: none"> チャイムの順守 学習環境を整備(机の上、筆箱) 返事の定着(名前を呼ばれたら「はい」) 	<p>【児童アンケートの肯定的評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①「授業の始まりと終わりのチャイムを守っていますか。」 ②「机の上や筆箱など、身の回りを整えて学習していますか。」 ③「名前を呼ばれたら返事をしていますか。」 	95%	92%		97%	B	<p>【児童アンケート】</p> <ul style="list-style-type: none"> ▲3項目中とも達成とはならなかった。 ①94% ②90% ③93% <p>▲重点取組期間を設定したが、学年やクラス間でのばらつきがあり、統一した指導とはならなかった。</p>	<p>○学習規律の重点取組項目と期間を設定し、全校で統一した指導を行うことで、どの学級でも同じ学習規律のもと、授業を行うことができるようになる。</p>				
豊かな心	地域を愛する心を持つとともに、夢や目標をかなえるための生活習慣身に付けさせる。	完全不登校の根絶	<p>○不登校の未然防止</p> <ul style="list-style-type: none"> 年に2回実施するQ-Uを基に、構成的グループエンカウンター等の計画的な実施 全職員による児童実態の連携実施 関係機関との協働的な連携実施 	<p>①「学級生活満足群」に属する児童の割合の上昇。「学級生活不満足群」や「要支援群」に属する児童の割合の減少。(1回目と2回目を比較して)</p> <p>②不登校児童、昨年度以下</p>	85%	100%		118%	A	<p>①学級生活満足群 67%(昨年度末)→68%(今年度) 学級生活不満足群 9%(昨年度末)→10%(今年度) 要支援群 1%(昨年度末)→2%(今年度)</p> <p>②昨年度不登校児童3名(9月末) 今年度不登校児童3名(9月末)</p> <p>○昨年度から引き続き不登校の児童が3名いるが、教室に位置づくことができない児童数名に関しては、SRや保健室を活用することで登校することができている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●不登校児童3名中1名は、SRへの登校も難しい。 ●学級生活に不満をもっている児童の割合が昨年度と比較して微増している。 	<p>○構成的グループエンカウンターを計画的に(月に1回)実施し、共感的な人間関係の育成を図っていく。</p> <p>○不登校の減少に向けて、SRや心の相談室等を活用するとともに、電話連絡や定期的な家庭訪問により、学校とのつながりを継続する。</p>	2			<p>・適正に評価されている。</p> <p>・不登校児童が9月末までで3名というのは、学校の取組を感じる。よく取り組まれている。</p> <p>・出会った子ども達がよく挨拶をしてくれる。子ども達の方から声をかけてくれてうれしくなる。</p>
			<p>○小中スタンダード(SDNあいさつ、言葉遣い)の定着</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童会役員によるあいさつ運動の実施 相手に応じた丁寧な言葉遣いの指導 	<p>【児童アンケートの肯定的評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①「SDN(先に誰にでも何度でも)のあいさつができていますか。」 ②「『です』、『ます』をつけて、ていねいに話していますか。」 	85%	82%		96%	B	<p>【児童、保護者、教職員アンケート】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①81.7%(保護者61.2%、児童83.9%、教員100%) ②81.8%(保護者62.4%、児童87.3%、教員95.8%) <p>○教職員の肯定的評価が高く、学校ではあいさつできていく児童が増えてきた。</p> <p>○職員室への出入りの仕方は定着してきた。</p> <p>○高学年を中心に丁寧な言葉遣いを使う児童が増えてきた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●保護者の肯定的評価が低いことから、家庭や地域であいさつや丁寧な言葉遣いができていない児童が多いと捉える。 ●話す相手に応じた言葉遣いができていない。 	<p>○児童会を中心に「S」(先に)をあいさつ強化週間で取り組ませることで「SDNあいさつ」の定着に繋げる。</p> <p>○「です」「ます」に限らず丁寧な言葉遣いができるよう、家庭学習の中に言葉遣いの宿題を取り入れ、全学年で意識できるようにする。</p> <p>○学校での取り組みについて、懇談会や学年通信で保護者に伝えるとともに、家庭での協力を促す。</p> <p>○「言葉遣いチェックカード」を通して、家庭と連携を図りながら丁寧な言葉遣い指導を行う。</p>				
健やかな体	体力を高め、感染症予防に対する高い意識を育てる。	新体力テスト結果の向上	<p>○運動能力の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> 運動量を確保する体育授業の工夫を共有化 4月と10月、2月の長座体前屈計測で向上率確認 年間を通じて外遊びや縄跳びなどの啓発 	<p>【4月・10月・2月の長座体前屈の記録】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①県及び全国平均値以上 75%以上 	75%	40%		53%	D	<p>【4月の長座体前屈の記録】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①39.8%(4月) <ul style="list-style-type: none"> ●目標値を大きく下回った。 ●柔軟性に課題がみられる児童が多い。 	<p>○週に3回、全校で朝のストレッチに取り組ませることで、柔軟性の向上を図る。</p> <p>○体育の授業の準備運動にアクティブチャイルドプログラムの動きを取り入れ、児童が意欲的に体育の授業に取り組めるようにする。</p>	2			<p>・適正に評価されている。</p>
			<p>○病気や感染症予防に対する行動の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ハンカチ持参の強化週間を設定 ICTを活用した手洗い方法の指導 授業や各種便りを活用した啓発 	<p>【ハンカチ点検】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①ハンカチ持参率 90%以上 <p>【児童意識調査の肯定的評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①手洗い実施、マスク着用、ハンカチ持参に関する肯定的評価 90%以上 	90%	93%		103%	A	<p>【ハンカチ点検】①93% 【児童アンケート】①92%</p> <p>○ハンカチ持参や手洗い消毒に対する意識が高まってきている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●ハンカチを忘れる児童が固定化されている。 	<p>○ハンカチを忘れる児童の家庭と連携を図ると共に、今後も実態把握と啓発を行っていく。</p> <p>○学年の実態に応じて、自分でハンカチを準備するよう声掛けをしていく。</p> <p>○ハンカチを使う意味やハンカチを忘れないための予防策を児童と共に考えながら指導を行う。</p>				
信頼される学校	地域や家庭の願いに応えるとともに、15年間を見据えた教育を行う。	働き方改革の推進	<p>○時間外勤務月45時間以内を完全実施</p> <ul style="list-style-type: none"> 月間勤務時間合計の確認、助言 行事、事務作業の計画、精選 教材の共有化 	<p>【超過勤務 月45時間以内】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①在校時間一覧表による超過勤務時間 <p>【教職員アンケートの肯定的評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①「現在、生き甲斐や行き甲斐を感じることができている。」 	90%	85%		94%	B	<p>【超過勤務 月45時間以内】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①4～9月までの月45h以内の割合 78.9%(重点月7・8月は100%) <p>【教職員アンケート】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①92% 生き甲斐や行き甲斐を感じている。 	<p>○年間の働き方改革重点月への取組の徹底を行う。(重点月5・7・8・9・12・1・2月)</p> <p>○成績処理時間等を設定し、事務時間を捻出し、持ち帰りの軽減を図る。</p>	2			<p>・適正に評価されている。</p> <p>・教職員アンケートの結果、「生き甲斐や行き甲斐を感じている」が92%というのは、高い数値である。子ども達が落ち着いていることが先生にとってよいことであり、生き甲斐につながっている。</p>
			<p>○地域に信頼される学校づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> 年間計画及び、時期に応じた服務研修実施 1年に2回、保護者・児童アンケート実施 	<p>【児童アンケートの肯定的評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①「田野浦小学校に通ってよかったと思えますか。」 <p>【保護者アンケートの肯定的評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①「学校は安心して子どもを通わせることができる教育を行っている。」 	95%	95%		100%	A	<p>【児童アンケート】①92% 【保護者アンケート】①97%</p> <p>○コロナ禍でもできる限り行うという視点で、学校行事や参観日、水泳学習、オンライン授業、校外学習等の取り組みを前向きに行ってきた成果である。</p> <p>○服務研修は計画的に実行できている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●8%の児童が、学校に対して不安や不満な気持ちを持っている。 ●白黒の学校便りでは、学校の様子が伝わりにくいとアンケートに記述した家庭がある。 	<p>○学校に不安や不満な気持ちを持っている児童に対して、カウンセリングマインドを持ち、聞き取りを行う。その後、学年団でその児童に対する取組を組織的に考え、実行する。</p> <p>○学校便りをすぐるにPDFで添付し、紙媒体だけではなく、PDFでも確認できるようにする。</p>				